

その5. 河川工事をみる

農学博士、元東京農業大学
日本ビオトープ協会顧問

立川 周二



故郷の風景には川があります。身近で親しんだ川の思い出を、いつとはなく追憶する人もいることでしょう。この連載では、とくに人口の集中する都市の、里川と呼ばれる小中河川を取り上げました。当然なことですが、ほぼすべての川に人為が加えられ、自然とかけ離れ変貌していました。埋め立てられて姿を消したものの、暗渠となり地下の闇を流れるもの、三面をコンクリートで固められ緑を失ったものなどがありました。これは流域に人々が生活する過程で、川を利用しながらも生命と財産を守るために、河川を改修し管理してきた結果です。しかしながら、現在見られる河川環境に、まだ緑が残されているとしたら、植物はもちろんのこと、さまざまな動物とともに、貴重な生態系を構成しています。そこをすみ場に生存する種には、すでに希少となり、都内で最後の個体群である可能性を否定できません。また、安全な一時的な避難場所として利用されていることもありましょう。

「野川」の概要は、すでに本誌47号に記述しました。東京都はこの野川流域の整備計画を2017年に作成しています。この河川工事の目的は、1時間あたり65mm規模の降雨に対応するものです。工事は大雨で増水した流量を安全に流すため、陸上(高水敷)の樹木を伐採し、陸地を削りながら水辺を直線とし、河床を掘削して均しました。またこの陸地の斜面は石積ブロックなどで覆い護岸としました。これらの作業過程では、バイパスで流水を迂回させて、河床を干して鉄板を敷き、車両を稼働させました。この工事により、野川が災害にさらに強くなりましたが、生きものへの対応と配慮が不足していたと思われ、大変残念なことでした。



図1. 小足立橋上流、工事前
2014年5月4日(撮影)



図2. 小足立橋上流、工事後
2021年6月18日(撮影)



図3. 小足立橋上流、工事中
2021年1月7日(撮影)



図4. 谷戸橋下流、工事前
2012年6月5日(撮影)



図5. 谷戸橋下流、工事後
2021年7月11日(撮影)



図6. 谷戸橋下流、工事中
2020年8月25日(撮影)



図7. 神明橋下流、工事前
2016年6月2日(撮影)



図8. 神明橋下流、工事後
2020年6月17日(撮影)



図9. 神明橋下流、工事中
2019年2月22日(撮影)

編集後記

本号では第12・13回ビオトープ顕彰受賞について紹介させていただきました。どのビオトープも素晴らしい内容で、改めて受賞者の皆様の活動に敬意を表します。

さて、本号では外来生物との向き合い方「外来種は悪者か？」をテーマに据えました。ビオトープ事業に関わる方なら必ずぶつかるとも言ってもよい外来生物との向き合い方を、様々な観点からとりあげました。

巻頭言では、立川周二先生より、自然保護はどうあるべきか。「The New Wild」の事例から、外来種の考え方について問題提起をいただきました。

五箇公一先生の特別寄稿では、テレビ番組などを例に掲げ、外来生物の概念、考え方、向き合い方について、わかりやすく詳細に解説いただきました。

その他、神垣健司氏の「ビオトープのいきものたち」、立川先生の連載コラム、地区活動報告、そして会員・BA等投稿では素晴らしい写真や資料を交えた報告をいただきました。本号も見どころの多い内容に仕上がったと自負しております、ぜひご活用下さい。

ともすると外来種＝悪＝処分といった風潮がある中、長い時間軸の中で人間と自然環境との持続可能な付き合い方を考える機会になることを期待します。

最後に、本誌発行にあたり大変お忙しい中、執筆いただきました先生方、関係各位の方々に心より感謝申し上げます。

編集委員：情報委員 若月学・砂押一成、正副総務役員、本部事務局

自然との共生をめざして一緒に活動しませんか。◇会員募集中◇

- | | |
|-------|---|
| 会員の種類 | ・法人正会員 この法人の目的に賛同して入会し、活動を推進する法人
・個人正会員 この法人の目的に賛同して入会し、活動を推進する個人 |
| 年会費 | ・法人正会員 100,000円
・個人正会員 10,000円
※10月以降3月末までのご入会は規程により、年会費は半期分となります。 |
| 会員の特典 | ・年2回発行の機関紙「ビオトープ」の入手。
・会員メーリングリストによりE-Mailによるシンポジウム、研修会等情報の入手。
・その他、地区活動への参加など。 |

入会手続き、入会申し込み用紙については、WEBページ<https://www.biotope.gr.jp/application/apply/>または下記本部事務局までメールかFAXでお問い合わせ下さい。

日本ビオトープ協会誌「ビオトープ」No. 49

2022年(令和4年)1月31日発行

発行所	特定非営利活動法人 日本ビオトープ協会
発行責任者	櫻井 淳 (日本ビオトープ協会 会長)
編集	協会 情報委員会・正副会長・総務委員会・本部事務局
本部事務局	〒170-0005 東京都豊島区南大塚2-6-7-101 TEL 03-6304-1650 FAX 03-6304-1651 E-Mail honbu@biotope.gr.jp URL https://www.biotope.gr.jp/

会員、ビオトープアドバイザーからの投稿歓迎

ビオトープの研究、実践事例等、会員・ビオトープアドバイザーの投稿を募集しています。投稿頂く場合は本部事務局までご一報下さい。



バッタとにらめっこ
(愛知県豊田市 豊田鉄工株式会社『トヨタの森』)
写真 松尾 義久 氏 提供